

2018 年度

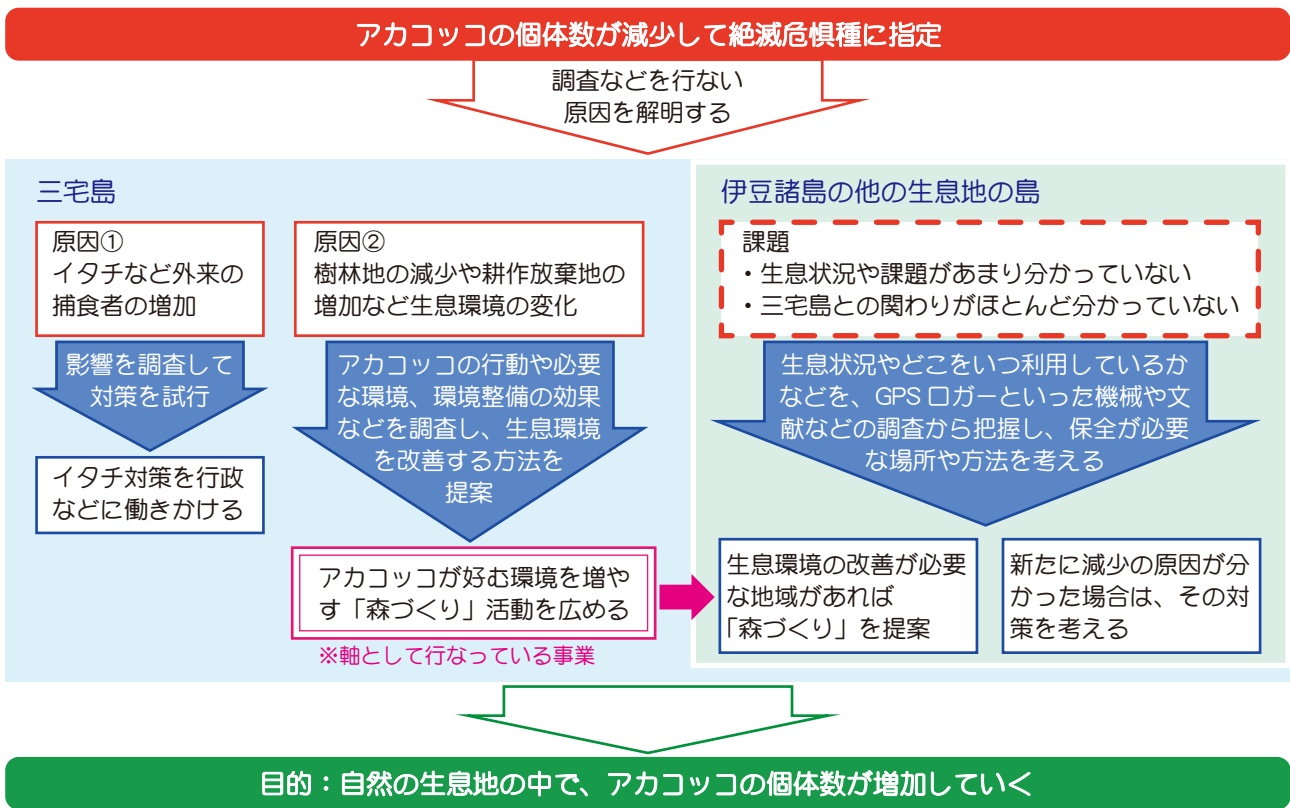
アカコッコ保護事業報告書



日本野鳥の会はアカコッコ保護事業として、伊豆諸島とトカラ列島のみに生息する日本固有種で環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類に選定されているアカコッコの個体数の増加を目的に、2012年から重要な繁殖地である東京都三宅島を中心に調査や環境整備、普及教育活動などを行っています。

目標

- ・アカコッコの生息地を増やすための森づくりモデルの確立と普及
- ・三宅島における森づくり作業の実施
- ・外来捕食者（イタチ等）への対策



主な活動

2012 年 保全計画の作成、次年度以降の調査計画等準備
2013 年～ 2017 年

- カラーリングを用いた繁殖期の行動圏面積の推定
- 森林内の下草管理区域のアカコッコによる利用状況の調査
- 三宅島でアカコッコ総個体数調査を実施（推定個体数は約 7,800 羽）
- アカコッコの森復活大作戦のリーフレットの配布とイベントの開催
- アカコッコの利用地域の解明に向け、ジオロケータを回収、GPS ロガーを装着

2018 年 アカコッコの利用地域の解明に向け、GPS ロガーを回収、新たに装着
アカコッコの森復活大作戦の広報とイベントの実施
アカコッコの外見による雄と雌の見分け方について調査



本事業は手島基金を基に実施しています



2018年度の活動

1) アカコッコの利用地域の解明

非繁殖期のアカコッコの利用地域を明らかにするため 2016 年から行ってきたジオロケーター（日照時間によって場所を特定する機械）を用いた調査は、装着した 11 個中 6 個から機械を回収することができましたが、故障のためデータが得られませんでした。

並行して 2017 年 7 月に 5 個の GPS ロガー（GPS を利用して場所を記録する機械）を装着し、翌年 7 月と 3 月に回収を行ったところ、3 個体からデータが得られました。

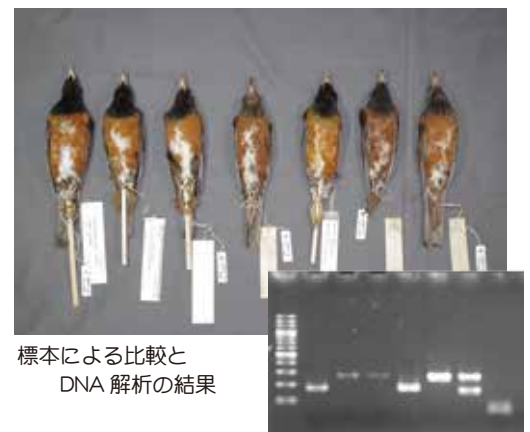
すべて成鳥のオスで、内 2 羽は図のようにあまり移動はせず、秋冬は営巣地に近い山の上って過ごし、1 月を過ぎると営巣地の近くに戻ってきました。残り 1 個体だけ 8 から 9 月に隣の神津島に渡り、また三宅に戻るという行動をしていました。今後、オスの例数を増やすとともに、メスや若い個体の行動についても調べる予定です。



あるオスの一年を通じた利用地域（10 日毎）
季節により移動することが分かった

2) アカコッコの雌雄判別

これまで行ってきた調査の中で、アカコッコのメスにも頭が黒くなる個体がいることに気がつきました。野外での目視による識別を正確に行うため、捕獲調査時の観察や山階鳥類研究所の標本をお借りしての年齢による羽色変化や雌雄差の比較、羽毛を使った DNA 解析を行いました。右の写真は、性別ごとに年齢順に標本を並べたものですが、オスとメスの見分けが非常に難しい羽色があることがわかりました。しかし、細かく見ていくと違いがあることもわかってきたため、サンプル数を増やして判別のポイントをまとめていきたいと考えています。



標本による比較と
DNA 解析の結果

3) イタチの生息状況

アカコッコ館の周辺にある 2 つの水場にセンサーカメラを設置して、イタチがどの程度現れるかを調べました。この水場は、アカコッコをはじめ多くの鳥たちが利用しています。カメラの画像を確認したところ、イタチは夜によく記録されていましたが、鳥たちが水場を利用する日中にもある程度の頻度で来ていることがわかりました。また、夜間に水の中の生き物を探る姿も確認できました。島外から持ち込まれたイタチに対し、どのような対策が取れるのか調査を進めていく予定です。



夜間に水場を訪れたイタチ

4) アカコッコの森づくり

アカコッコが好む環境を知っていただき、増やしていくためにアカコッコ館周辺の村有林で島外の参加者と一緒に森づくり活動をしました。繁殖期前にアカコッコの営巣地でエサがとりやすいように下草刈りを行いました。ある程度落ち葉が見えるようになった後、今回は、アカコッコの水場づくりも行いました。少人数でしたが、協力して 2 つの水場を作ることができ、活動中に営巣地付近に設置することができました。センサーカメラには水場を利用するアカコッコの姿が写っていました。



森づくりの参加者と一緒設置した水場

本事業は手島基金を基に
実施しています